

令和2年7月吉日

各 位

OATアグリオ株式会社

「グランドオンコル粒剤」適用拡大のご案内

拝啓

時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。平素は格別のお引き立てをいただき、厚く御礼申し上げます。

さて、かねてよりご協力を賜りました殺虫剤「グランドオンコル粒剤」が令和2年7月14日付けにて適用拡大登録となりましたので、下記のとおりご案内申し上げます。

なお、今回適用拡大した「れんこん」については、収穫前日数が180日と長く、残留基準値が0.01ppmと非常に低いことから、使用にあたっては注意が必要になります。注意事項を守って使用されるように適正使用の周知徹底をお願い申し上げます。詳細については弊社担当者にお問い合わせくださいますようお願い申し上げます。

今後とも、皆様のご指導ご支援のほど、宜しくお願い申し上げます。

敬具

記

商品名 : グランドオンコル粒剤 (第20317号)
有効成分・% : ベンフラカルブ 8.0%

登録年月日 : 令和2年7月14日 (適用拡大)

<1>適用内容の変更 :

- ・ 作物名「れんこん」(レンコンネモグリセンチュウ)を追加する

<2>注意事項等の変更

別紙のとおり変更。

<3>れんこんでの普及方針

別紙参照

別紙

【変更後の適用表】

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ベンフラカルブを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	イネミズゾウムシ イネドロオイムシ ツマグロヨコバイ ヒメトビウンカ セジロウンカ ニカメイチュウ イネツトムシ イネシンガレセンチュウ	育苗箱(30×60 ×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り50g	移植3日前 ～移植当日	1回	育苗箱の上 から均一に 散布する。	1回
	イネカラバエ フタオビコヤガ イネヒメハモグリバエ		移植当日			
れんこん	レンコンネモグリセンチュウ	15kg/10a	植付前 但し収穫 180日前ま で		湛水散布後 全面土壌混 和	

【変更後の注意事項】

8. 使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ秤量し、使い切ること。
- (2) 育苗箱の上から均一に散布し、葉に付着した薬剤を払い落とし、軽く散水して田植機にかけて移植すること。
- (3) 軟弱徒長苗、むれ苗、移植適期を過ぎた苗などには薬害を生じるおそれがあるので注意すること。
- (4) 稲苗の葉が濡れている場合薬害を生じやすいので、葉に付着している露を払い落としてから薬剤を散布し、軽く散水すること。
- (5) 誤って過剰に使用すると葉先枯れ等の薬害を生じることもあるので、所定の使用量、使用方法を厳守すること。
- (6) 本田が砂質土壌の水田や漏水田、未熟堆肥多用田の場合は使用をさけること。
- (7) 本田の整地が不均整な場合は薬害を生じやすいので、代かきは丁寧に行い、移植後田面が露出したりしないように注意すること。移植後は直ちに湛水し、極端な浅水、深水はさけること。また、深植にならないように注意すること。
- (8) 本田への移植後低温が続く、苗の活着遅延が予測される場合は使用をさけること。また、移植後極端な高温が続くと予測される場合も使用をさけること。
- (9) れんこんに使用する場合、湛水状態で所定量の薬剤を圃場全面に均一に散布し、土壌中に均等に分布するようによく混和すること。処理後14日間は落水・かけ流しはしないこと。
ハウス栽培には使用しないこと。また、薬剤処理後6カ月間（180日間）は収穫しないこと。
- (10) ミツバチに対して影響があるので、ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにすること。
- (11) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (12) 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

9. 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 医薬用外劇物。取扱いには十分注意すること。
誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせること。
本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けること。
- (2) 本剤による中毒に対しては動物実験で硫酸アトロピン製剤の投与が有効であると報告されている。
- (3) 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (4) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。
作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをする。

10. 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

- (1) 水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、本剤を使用した苗は養魚田に移植しないこと。
- (2) 水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、養殖池等周辺での使用はさけること。
- (3) 水産動植物（魚類、甲殻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意すること。
- (4) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

【れんこんでの普及方針】

- ・ 漏水田では使用しない。使用する場合は、事前に漏水対策をしっかりと行い隣接田への流出を防いでから処理する。
- ・ 推奨される使用時期は、植付け直前の代かき時とする
- ・ 収穫前の圃場が多い7～12月は、隣接田への漏水やドリフトによる作物残留の危険性が高いため、使用しない。
- ・ ハウス栽培では使用しない。
- ・ 条掘り（筋掘り、残し掘り）した圃場では使用しない。
- ・ 圃場全面に均一に散布し、土壌中に均等に分布するように処理当日中に速やかに混和する。
- ・ 処理後14日間は落水・かけ流ししない。
- ・ 処理後6カ月間（180日間）は収穫しない。